

令和8年度 歌島中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

Ⅰ「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

Ⅰ 全国学力・学習状況調査

※英語はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（CBT=Computer Based Testing）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)		平均IRTスコア 英語4技能 ()内は3技能(参考)
			国語	数学	国語	数学	
3 年	学校	213	56	49	6.3	13.6	475 (485)
	大阪市	-	60	55	5.4	11.4	499 (499)
4月23日	全国	-	63.9	57.0	4.9	10.4	499 (499)

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

調査結果とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について

成果と課題

全国学力・学習状況調査

【英語】

〈成果〉英語4技能全体および「聞くこと」「読むこと・書くこと」の平均正答数は大阪府・全国平均と概ね同等の水準を維持しています。IRTバンド別分布でもバンド3以上に半数以上の生徒（55.3%）が位置しており、中位層の学習定着が図られている点が強みです。また、「話すこと」の日常的なやり取りを扱う基本問題（問15(1)）では正答率31.4%を確保し、一定のコミュニケーション力が身に付いています。

〈課題〉「話すこと」の平均正答数が0.4問（全国0.7問）、IRTスコアが475点（全国499点）と他技能に比べ低調です。特に自分の考えや理由を述べる発表領域（問18正答率5.6%、問19無解答率59.6%）に強い課題が見られます。「話すこと」全般で無解答率が約39%～60%と極めて高く、英語で応答を試みない・途中で諦めてしまう生徒が多い点が深刻な課題です。

【数学】

〈成果〉数と式」領域（正答率62.9%）において一定の定着が見られ、正の数・負の数（問題1：80.8%）や文字を用いた式・方針の選択（問題6(1)：65.3%、6(2)：62.9%）で府平均に近い成果を上げています。また、動画の時間とデータ量の関係をグラフから読み取る問題（問題7(1)：70.4%）や、三角形の合同を利用した証明の記述問題（問題8(2)：44.1%）でも粘り強く解答し、基本的な計算力や典型的な証明手順の理解が確かです。

〈課題〉全体平均（49.0%）は全国（57.0%）や府（55.0%）を下回り、特に「図形」（39.7%）と記述式問題（33.8%）に明確な課題があります。仮定となる関係を選択する問題（問題8(3)：21.6%）や箱ひげ図の読解（問題9(2)：58.2%）、累積度数の算出（問題9(1)：36.6%）の正答率が低く、思考過程を説明する記述式（問題6(3)、7(2)、9(3)）では無解答率が最大47.9%に達し、概念理解や説明力に課題が残ります。

【国語】

〈成果〉領域別では「書くこと」（正答率61.8%）の健闘が見られ、特に表現の効果を考えて工夫して書く短文式問題（3二）の正答率は91.1%に達し、全国（92.3%）や大阪府（90.1%）と同水準の成果を示しています。また、文章の展開の意図を把握する問題（3三）や集めた材料を整理する問題（2一）などでも府平均に近い成果を上げており、意図に応じた表現力や特定の場面での情報の理解・整理力は着実に定着しています。

〈課題〉全体の平均正答率（56.0%）は全国（63.9%）や府（61.0%）を下回り、特に「読むこと」（50.2%）や記述式問題（35.4%）に大きな課題があります。文章構造の把握や文脈に即した語句の抽出（4二：25.8%）、読み手からの助言を踏まえた推敲・記述（3四：31.9%）、表現の効果を説明する記述（4四：28.6%）の正答率が低く、記述式や一部短文式で無解答率（最大27.7%）が高い点も顕著な課題です。

今後に向けて

全国学力・学習状況調査

【英語】発話への心理的ハードルを下げ無解答を減らすため、日常授業でのスモールステップ指導を徹底します。1文・一言の感想から始め、自分の考えに理由（Because...）を1つ付け加えて即興で話すペアワークを帯活動として定着させます。また、端末を活用した録音課題やスピーキングテストを定期的に導入して発話機会の絶対量を増やし、応答意欲とアウトプットへの自信を高める授業改善を組織的に進めます。

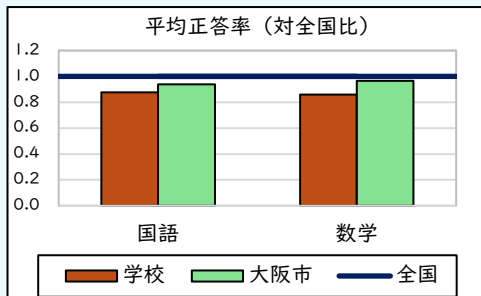
【数学】「図形」や「データの活用」における用語・概念（仮定・結論、累積度数、箱ひげ図など）の基本理解を講義・演習を通じて再徹底することが必須です。また、問題解決のプロセスや自分の考えを言葉や式で筋道立てて表現する記述指導を重視し、理由説明や方針策定のステップを小刻みに記述させる取り組みが効果的です。さらに、無解答を減らすため、部分的な考えでも書き進められるような発問や指導支援を行い、粘り強い解答姿勢を養います。

【国語】まずは長い文章構造を捉えて要点を的確に読み取る読解指導の拡充が必要です。さらに、辞書等を活用して文脈に合った語句を見つけ出す活動や、自他の文章の良さ・改善点を見つめ直す相互推敲の機会を授業内に体系的に取り入れることが求められます。併せて、記述問題に対して自分の考えを諦めずに最後まで書ききる粘り強い取り組みを促すため、思考のプロセスを可視化するワークシートの活用や丁寧な指導・支援を行います。

令和8年度 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査結果の概要（国語・数学）

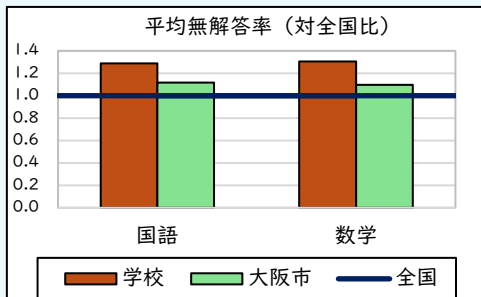
平均正答率（％）

	国語	数学
学校	56	49
大阪市	60	55
全国	63.9	57.0



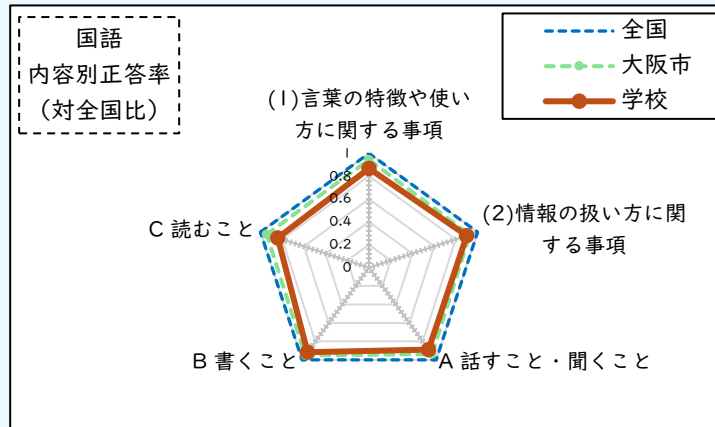
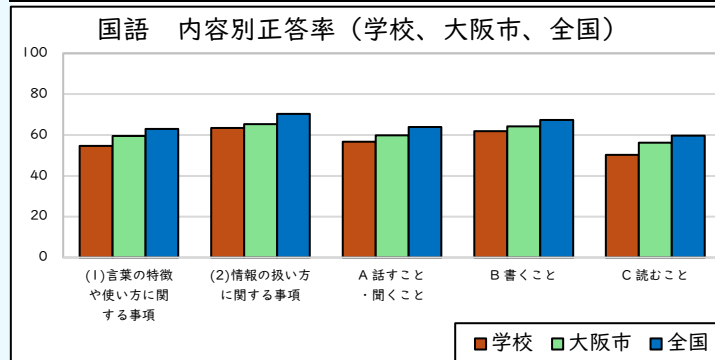
平均無解答率（％）

	国語	数学
学校	6.3	13.6
大阪市	5.4	11.4
全国	4.9	10.4



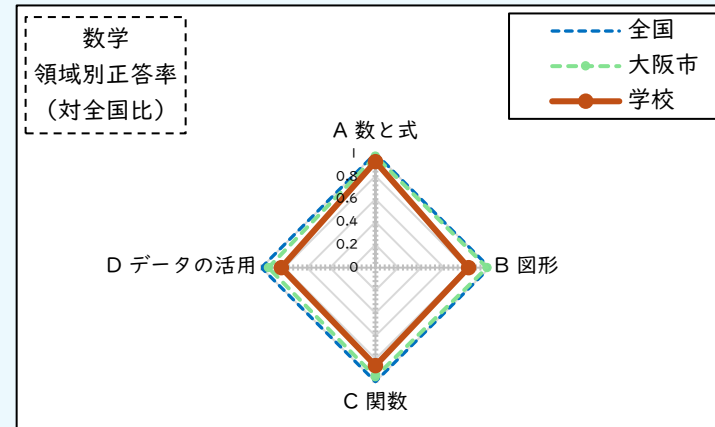
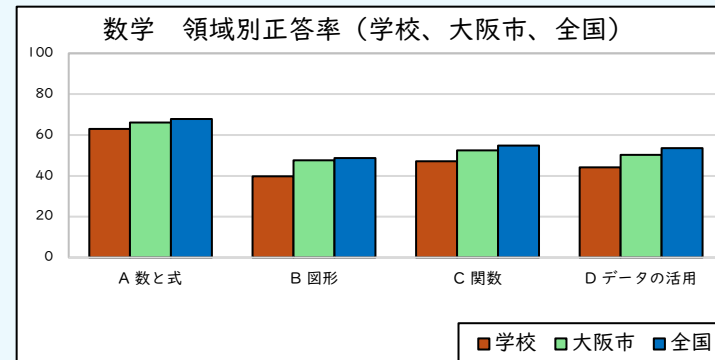
【国語】内容別正答率

学習指導要領の内容	対象問題数（問）	平均正答率（％）		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方にに関する事項	5	54.7	59.5	63.0
(2)情報の扱い方にに関する事項	1	63.4	65.3	70.4
(3)我が国の言語文化に関する事項	0	-	-	-
A 話すこと・聞くこと	3	56.7	59.9	63.9
B 書くこと	3	61.8	64.2	67.4
C 読むこと	3	50.2	56.3	59.7



【数学】領域別正答率

学習指導要領の領域	対象問題数（問）	平均正答率（％）		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	62.9	66.1	67.8
B 図形	4	39.7	47.6	48.7
C 関数	3	47.1	52.5	54.8
D データの活用	4	44.2	50.2	53.5



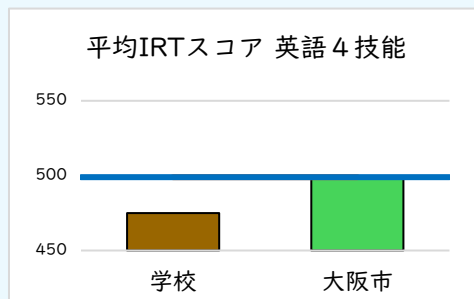
令和8年度 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査結果の概要（英語）

英語 平均IRTスコア

学校	475 (485)
大阪市	499 (499)
全国	499 (499)

※ 4技能の平均IRTスコアです

※ () 内は3技能の平均IRTスコアです



【IRT(Item Response Theory：項目反応理論）とは】

児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

【IRTスコアとは】

IRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

導入する年（中学校英語は令和8年度）の全国平均を基準値とし、経年比較が可能な形で算出します。

【IRTバンドとは】

IRTスコアを1～5の5段階に区切ったものです。3を基準のバンドとし、5が最も高いバンドとなります。

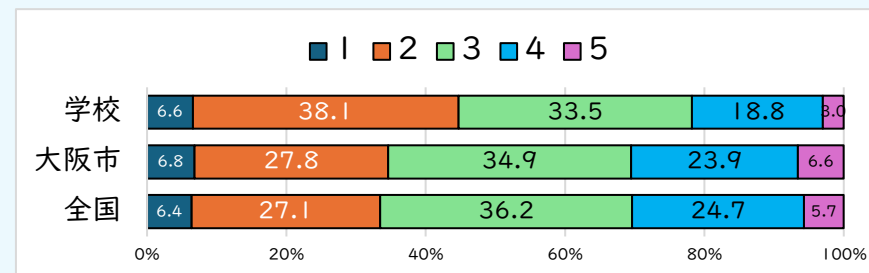
※IRTスコア・IRTバンドは、難易度の高い問題にしていると高めに、難易度の低い問題に誤答していると低めに算出されます。

IRTバンド分布比較（4技能）

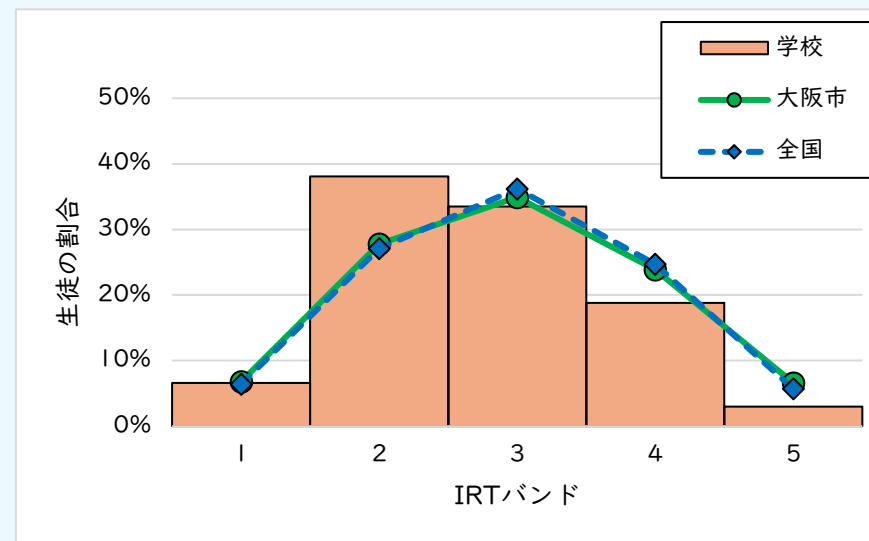
	1	2	3	4	5
学校	6.6	38.1	33.5	18.8	3.0
大阪市	6.8	27.8	34.9	23.9	6.6
全国	6.4	27.1	36.2	24.7	5.7

※ 4技能のIRTバンド分布です

IRTバンド分布比較（4技能）



IRTバンド分布グラフ（4技能）



生徒質問調査より

※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

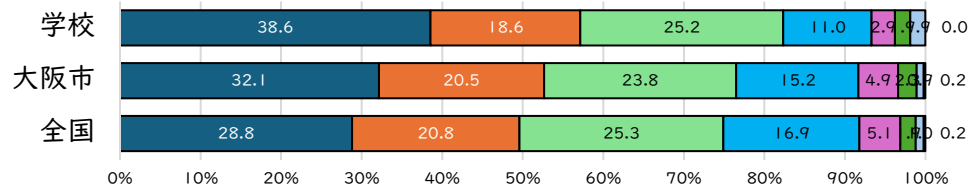
■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5 ■ 6 ■ 7 □ その他・無回答

質問番号

質問事項

(4)

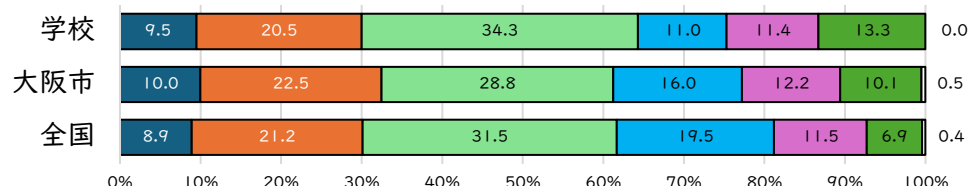
普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等（以下、「スマートフォン等」）でSNSや動画視聴などをしますか（スマートフォン等を使って学習する時間やゲームをする時間は除く）



- 1 4時間以上
- 2 3時間以上、4時間より少ない
- 3 2時間以上、3時間より少ない
- 4 1時間以上、2時間より少ない
- 5 30分以上、1時間より少ない
- 6 30分より少ない
- 7 スマートフォン等を持っていない

(23)

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間を含む）



- 1 3時間以上
- 2 2時間以上、3時間より少ない
- 3 1時間以上、2時間より少ない
- 4 30分以上、1時間より少ない
- 5 30分より少ない
- 6 全くしない

(26)

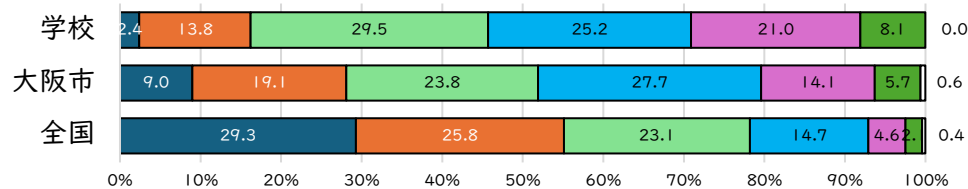
学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）



- 1 2時間以上
- 2 1時間以上、2時間より少ない
- 3 30分以上、1時間より少ない
- 4 10分以上、30分より少ない
- 5 10分より少ない
- 6 全くしない

(35)

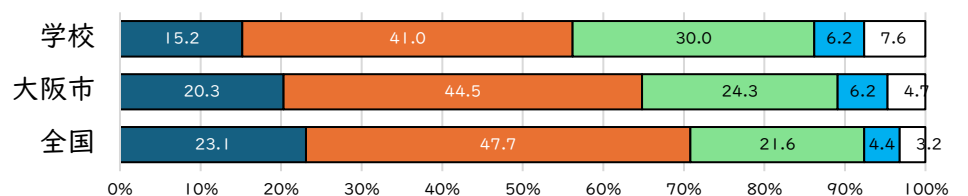
1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか



- 1 ほぼ毎日（1日に複数の授業で活用）
- 2 ほぼ毎日（1日に1回くらいの授業で活用）
- 3 週3回以上
- 4 週1回以上
- 5 月1回以上
- 6 月1回未満

(40)

1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか



- 1 当てはまる
- 2 どちらかといえば、当てはまる
- 3 どちらかといえば、当てはまらない
- 4 当てはまらない

学校質問調査より

※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

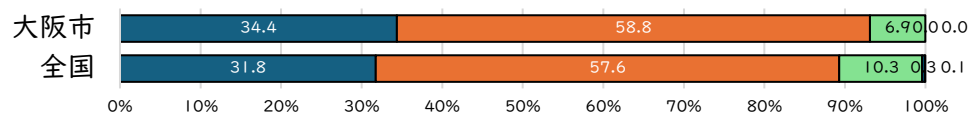
質問番号

質問事項

(66)

生徒が学びを深めるための指導改善に向けた取組として、教員がコンピュータなどのICT機器の効果的な使い方を学ぶために必要な情報や研修、自己研鑽の機会等を十分に設けていますか

【学校の回答】 2 どちらかといえば、当てはまる

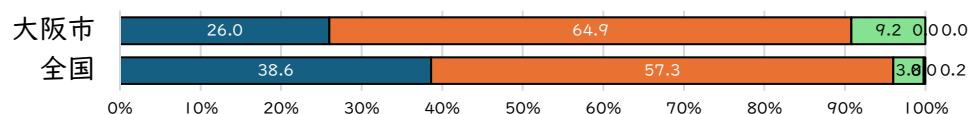


- 1 当てはまる
- 2 どちらかといえば、当てはまる
- 3 どちらかといえば、当てはまらない
- 4 当てはまらない

(17)

生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか

【学校の回答】 2 どちらかといえば、している

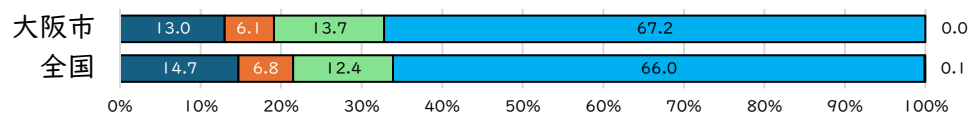


- 1 よくしている
- 2 どちらかといえば、している
- 3 あまりしていない
- 4 全くしていない

(22)

特定の教員が学級担任を務めるのではなく、複数の教員が共同で学級担任を務める体制（いわゆる、チーム担任制、グループ担任制）を実施していますか

【学校の回答】 1 全学年で実施している

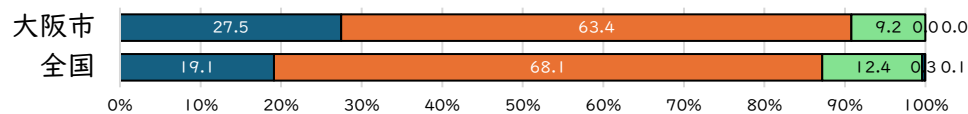


- 1 全学年で実施している
- 2 一部の学年で実施している
- 3 実施に向けて検討している
- 4 実施していない

(26)

調査対象学年の生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

【学校の回答】 2 どちらかといえば、そう思う

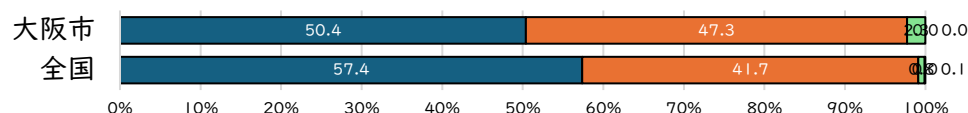


- 1 そう思う
- 2 どちらかといえば、そう思う
- 3 どちらかといえば、そう思わない
- 4 そう思わない

(19)

学校運営上の課題への対応に当たっては、各教職員（支援スタッフを含む）の専門性を活かせるよう適切な役割分担や連携協働をしていますか

【学校の回答】 2 どちらかといえば、そう思う



- 1 そう思う
- 2 どちらかといえば、そう思う
- 3 どちらかといえば、そう思わない
- 4 そう思わない